

# 法匠会報

法政大学 工学部 建築学科 同窓会会報

第37号 | 2002年6月20日

発行所 〒184-8584  
東京都小金井市梶野町3-7-2  
振替口座 1-89264  
TEL・FAX (042) 387 6385  
法政大学工学部建築学科同窓会  
発行人 服部陸郎  
編集人 会報編集委員会

## 14年度活動計画を決定

### 「専門委員会」設置など将来像の検討も

建築学科同窓会会長 服部陸郎



同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍の事と存じ上げます。又日頃の同窓会へのご協力やご理解を賜り本当に有り難く心より感謝しております。

さて、日本社会の全てが、既存の延長線上の見直し策しか描けなくなった昨今の状況により、絶対的閉塞感に支配され、何をやっても、問題ありで一向に良くなる気配を見せない状況であります。

又、我が同窓会にとっても何らかの方策を講じなければならないと感じる今日この頃であります。そんな中で、建築学科同窓会は2002年4月25日に常任理事会が開催され、本年度の事業計画が承認され活動がスタート致しました。

承認された主な行事は、新入生歓迎会ウォークラリー（5月25日実施済み）、法匠展50、法匠セミナー（本号にて紹介）新年会、法匠会報（37号、38号）女性ネットワークの活動、等々であります。

私達執行部はこれらの事業を多くの皆様のご協力を頂戴しながら進める所存であります。

更に本年度の事業として、同窓会の今未来のあるべき姿を検討する為の「専門委員会」の設立も承認を頂戴しました。

それらの「専門委員会」とは

**第一に、同窓会の将来像について考える専門委員会**

**第二に、卒業生へのPR（同窓会活動のIT化を含めた）専門委員会**

**第三に、同窓会会則見直し検討専門委員会**

と三つであります。

いずれも重要かつ大事な問題であり、広く又多くの卒業生各位に委員になってもらい、御検討していただき何らかの纏めをお願いしております。現状の世の中と同じ様に、同窓会の将来にとって直ぐ効くような、即効薬がある訳ではありません。しかし、衆知を結集し議論を重ねる事は必要かつ重要だと考えてのことであります。そして、できれば本年度末には議論の結果のある部分でも、卒業生の皆様に提示し、皆様が参加し皆様が考える土壌がより充実できれば良いと考えております。暖かく、長い目で見守ってくださる事を切にお願いします。

最後になりますが、不透明な世の中だからこそ同窓生の互いの情報や助け合いが必要であると考えます。今まで以上のご支援、ご助言並びに参加をお願い致しまして年度始めの挨拶とさせていただきます。有難う御座いました。

## 法匠セミナー予告

開催日 10月19日(土)  
13:00~15:00 セミナー  
15:00~ 懇親会

場所 セミナー(富士見校舎532教室)  
懇親会(ポアソナードタワー26階ラウンジ)



講師-1: 富永 譲 (法政大学教授)

題目: ひらたタウンセンターについて

内容: 人口1万人足らずの山形県の小さな町が、町の中心施設を建設するに当たって、6年前、公開コンペションをおこない、この夏に完成、オープンした。その完成までの経緯と計画の考え方についてスライドを交えて語ってみたい。

略歴 1943年奈良県生まれ、1967年東京大学工学部建築学科卒業後、菊竹清訓建築設計事務所、東京大学助手を経て現在フォルムシステム設計研究所主宰。作品に山形県平田町タウンセンターなど、著書に『建築家の住宅論』など多数。



講師-2: 永瀬克己 (法政大学助教授)

題目: かたちの世界への彷徨

内容: 小さな旅に出た。はじめは形のない白い世界だった。

描くことによる形の身体化。知覚としてのゲシュタルト特性から認知としての距離概念そして形態感情へ。場の理論としての集落への旅。

略歴 1968年法政大学工学部建築学科卒業後大学院、會田雄亮研究所、法政大学助手を経てこの春から助教授。

作品に「イナコスの橋」(川口衛教授と共同)「小金井市立総合体育館」など  
主な著書『図説 民俗建築大事典』(共著)など多数。

### 新入生歓迎ウォークラリー

5月25日(土)新入生147名が、東京、上野、表参道、代官山、高田馬場、日暮里、千駄ヶ谷の7つのコースに分かれ、先生とOB36人のリーダーに引率されて東京の町を見学して歩きました。3時間ほどのウォーキングのあと市ヶ谷校舎へ集合、懇親会を行いました。新入生にとっては、初めての東京。OBにとっても変貌する町を年一度体験する楽しいイベント。他校にはない法政独自の、教室と同窓会の共催による企画として定着しました。

### 第5回「法匠展50」作品募集

毎年6月に行われていた法匠展が今年は9月に開催の予定となりました。油絵、水彩画、墨絵、写真、版画、陶芸など日頃の作品を持ちよって楽しく語らしましょう。今年は先生や学生も多数参加が予定されており、にぎやかな展覧会になりそうです。

日時: 9月13(金)~17(火)  
場所: 武蔵野芸術劇場(JR中央線三鷹駅前)  
問合せは: 近藤一郎(プラナーク設計)  
tel 3473-9506 fax 3473-9526

## 人いろいろ

## 川口先生 IASS (空間構造学会) トロハ・メダル授賞

昨年10月9日～13日に名古屋国際会議場で開催された「IASS・シェルと空間構造に関する国際シンポジウム」において、川口衛先生がIASS最高の賞であるトロハ・メダルを授与されました。IASSは、偉大な構造家であり美しいシェル構造の設計等で知られるエドゥアルド・トロハ博士が1959年に設立した国際学会で、「シェル・空間構造」のみならず建築構造設計の分野において世界的に最も権威のある国際会議の一つです。

トロハ・メダルはシェル・空間構造の分野で大きな功績のあった人およびIASSに多大な貢献のあった人に贈られる賞であり、川口先生は両者を満たすものとしてIASS理事会から推薦されました。日本人でのトロハ・メダル受賞は、先生の恩師、故坪井善勝東大名誉教授に次いで2人目です。受賞理由の中では、川口先生の国立オリンピック屋内水泳場から、大阪万博での空気膜構造プロジェクト、パンタドーム工法の発明と設計、橋、タワーと今日も継続的に続けられている先生の革新的な構造設計の数々が挙げられ、また、



法政大学での教育者としての活動を続けながら、永年、IASSの理事、副会長として学会を盛り立てて来たことが紹介されました。

先生は、2000年よりIASSの会長も務められており、日本に於いては15年振り、3回目の開催になった今回の名古屋大会も、川口先生の舵取りで無事大成功に終わりました。

開会式でJ.F.アベル副会長からトロハ・メダルを授与された先生は「トロハの偉大さには今でも感心させられる。今後も頑張っていきたい。」と決意も新たに述べられていました。

川口先生、トロハ・メダル受賞を心よりお祝い申し上げます。川口先生の益々のご活躍ぶりを法匠会一同確信しております。

## たるき

「法匠会報」の編集に参加して4年、半年に1回の発行ですので、今回が、7回目になります。まず発行前に編集委員会を行い、各ページのテーマを決めます。

次に各自のテーマごとに、取材、インタビュー、写真撮影、編集、校正を進め、Eメール、FAX等を利用して紙面の構成をします。

編集に携さわってみて役に立つと思うのは、日常の仕事であまり関心のない情報が、生の声で耳に入ってくる点だと思います。新しい情報を収集しておき、「頭の中が活性化できる」と思って参加しています。

話変って、この原稿を校正している時、W杯サッカーで、日本、韓国共に決勝リーグへの進出をきめました。(6月16日記) この破竹の勢いで、我々も茶髪や赤髪の若者と共に日本を、また法政の建築も、さらにさらによくしていくようにしましょう!!

がんばれ日本!!

がんばれ法政!!

この記事を読んで、「編集に参加しよう」思う方がありましたら、

taroyasui@aol.com まで(安井)

## 「法匠会東海」の集い

平成13年11月15日(木)名古屋駅前マリオットアソシアホテルにて、愛知、岐阜、三重、福井の建築同窓生28名が5年ぶりに集い和気藹々と話がはずみ、お互いに旧交を暖めあいました。

この集いを毎年行う事を決議し、同窓の団結を誓いあいました。(カッコは卒年)

一木五郎(56)、池田忠雄(59)、榊原義嗣(61)、小松英弘(62)、杉本仁至(63)、林隆治(66)、坂本悠(68)、石森修一郎(70)、本間知孝(70)、石黒正則(70)、横山正登(70)、高田幸博(72)、加藤英昭(73)、高橋紀雄(73)、嬉野豊(75)、岩田覚(80)、野田仁彦(80)、伊藤誠(81)、寺田真人(81)、片岡幸博(82)、大島務(83)、安形昌久(86)、富成英一(87)、堀田保将(87)、春田直人(91)、平山政雄(91)、牧田謙治(91)、田木雅久(93) (高橋紀雄)

## 「習志野校舎の同期会」集う

いつ会っても懐かしい同期会、しみじみとこんな言葉が話題になる年齢になった私たち、法政工専(51年卒)、工学部(53年卒)の仲間です。

実は、前年このメンバーで同期会を開いたばかりであったが、また早いうちに会いたいとの幹事の希望もあり、又、ポアソナード校舎を見たいのでは是非とも市ヶ谷校舎で、という声もあり、昨年5月30日に開催した。

まず藤崎さん(土木)の司会で、前回幹事を務めていただいた関根靖さんが残念ながら2月に他界されたので、全員で冥福を祈り、黙祷をささげる。次に小澤さんの乾杯の音頭で幕をあげた。いま26階建ての超高層の校舎を見上げるとき、改めて、50数年前の習志野校舎(当時木造



兵舎跡)を思い出し、隔世の感を憶える。歓談のなか、「70歳を過ぎると1年1年生きている証しが欲しい、来年も集まろう」の声に皆が賛同。校歌に酔いしれながら旧交を暖めた。(田丸昭一)

編集委員会 山本寿夫(1979年卒)  
小川 格(1966年卒)  
安藤照代(1967年卒)  
永瀬克己(1968年卒)  
石黒豊明(1972年卒)  
安井太郎(1981年卒)

## 「彩(16期)の会」報告

2002年4月22日(月)pm6:00～  
場所:市ヶ谷校舎80年館7階大会議室  
今回のスピーカー:  
永瀬克己氏(法政大学建築学科)  
「スローな歩みから・・・」  
須田睿一氏(須田建築計画工房)  
「民家再生の実践報告」  
丸尾茂樹氏(鉄建建設)  
「土木における新技術報告」

懇親会:同日pm7:00～ 場所:市ヶ谷校舎ポアソナードタワー26階スタッフ・ラウンジにて、先輩方・女性ネットワーク有志+16期生が集い、今回のスピーカーを酒の肴に懇親会が開催されました。

人と技術のネットワーク リフォーム業界最大手

# ANON

HUMAN & TECHNICAL NETWORKS

建築統括本部長 服部 陸郎(1964年卒)

株式会社 アノン

東京都港区浜松町 2-7-2 秀和第2浜松町ビル TEL 03-5425-2511

お元気ですか

## いまもなお我が道をゆく 宮宇地一彦君

「中学時代は文学少年。高校以降は余生だ。」と言いながら、学生時代にNHK全国のど自慢大会に羽織袴で出演、村田英雄の王将を歌って銀賞。実にマイペースでユニーク。早稲田大学、ワシントン大学と13年間学生生活をつづけ、ロンドンからカルカッタへと、1年半の歴史探究の旅で訪ねた国が35、訪ねた都市が350。10年間菊竹事務所での活躍の後、43歳で事務所設立、昨年文化女子大教授になる。「来年60歳で修行を終えて、考えていることと創ることを一致させる建築家になりたい。」との抱負。



## 法政大学で建築を学ぶきっかけは？

高校時代に雑誌で見た大江宏先生の本校のモダンな建物に惹かれて受験しました。

1、2年は三田の校舎で学び、大学の中心は都心にあるべきと東小金井への移転に対して総長へ意見書を送りました。3年では夏休みに日本の建築を見るために同窓生名簿を持って日本全土を回りました。

私の人生はやり直しの人生、大江ゼミに入るために3年の学生寮の課題を画き直して再提出、ゼミに入ることを認められました。土、日に世田谷の大江先生の自宅に伺い、歴史、哲学の重要性を学びました。4年の時は目白の大江事務所でアルバイト。高松文化会館の歴史からの発想を学び、黒川事務所のアルバイトではプレゼンテーションの技法を学びました。1年留年して卒業設計と卒業論文に専念、卒業後早稲田の第二文学部に入り、法政の計画研究室の助手をしながら通いました。当時雑誌の記事を小能林先生に



パルテノン神殿 (アテネ)

励まされて書いたことが忘れられません。

## アメリカに留学されたのは？

二十代で日本を出ると決めていて、29歳でワシントン大学に入学、フィリップ・シール教授のもとでシークエンシャルな環境経験の記号法を学びました。3年後M.A.を取得してアメリカを去るときがポストモダンの始まりの時代、違和感を感じながらヨーロッパ、北アフリカ、中近東、アジアの歴史探究の旅を始めました。

アフガニスタンのカイバル峠を越え、アジアモンsoonで体調を崩したが、インダス川のハラッパとモヘンジョダロを見ないと死ねないと頑張った。タリバンに破壊されたパーミヤンの遺跡やブッタガヤの沙羅双樹に感激。西洋哲学と仏教哲学にふれた旅でした。

## 菊竹事務所に入られたのは？

菊竹先生に信頼の厚い武者先生の紹介で入所。アイデアプロジェクトを3年間担当した後、西友ストアー青梅河辺店の現場を担当。朝3時に起き、それまでの1/500からいきなり原寸の世界を経験しました。江戸東京博物館の基本設計の途中で退社。菊竹先生は、納得するまでつくっていくので、途中で変更すること自体が設計であるという考え方の建築家です。「これをちょっとまとめておいて下さい。明日の朝打ち合わせをしましょう」と言って帰る怖い人。こちらは徹夜で図面をつくるわけです。つくるといことはこういうことであろうか、ということを実感しました。

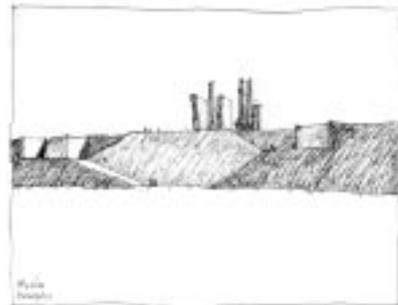
## その後はどのように過ごしてこられたのですか？

1987年43歳で宮宇地一彦建築研究所を設立しました。法政の兼任講師をしながら仕事とコンペに忙しかったが、平成2~3年から仕事が無く時間があつたのでフィリップ・シールのもとで学んだシークエンスの記号法を、ヨーロッパの中世都市、近代都市に用いて分析し、日本の茶室、障害者施設等を加えて50歳で博士論文にまとめました。何か次のことをするときの夜と昼の二重生

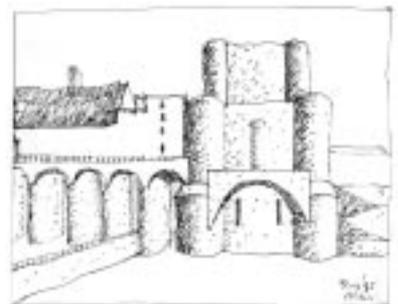
## 略歴

1943年 広島県呉市に生まれる  
1967年 法政大学建築学科卒、助助手  
1971年 早稲田大学第二文学部卒  
1975年 ワシントン大学建築学科大学院M.A.取得  
1976年 菊竹請訓建築設計事務所入所  
1987年 宮宇地一彦建築研究所設立、50歳で工学博士  
2001年 文化女子大学教授

## 旅のスケッチより



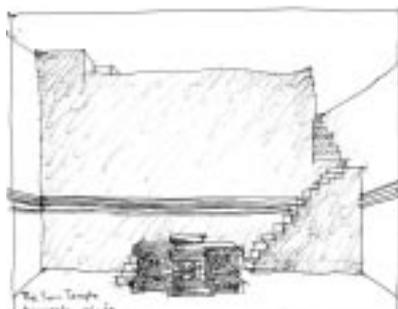
ペルセポリス (イラン)



アルビ大会堂 (フランス)



バルベック神殿 (レバノン)



太陽の寺 (コナクラ、インド)

活が色々な意味で役立っています。

2001年から文化女子大学住環境学科の教授になりました。生活感のある設計を教えていきたいと思っています。来年60歳でこれまでの修行を終え、考えていることと創ることを一致させる建築家になりたいと考えています。デザイン論も出版する予定です。

# コンピュータ奮戦記

## 女子大でCADを教える

石黒豊明 (1972年卒)

挑戦するOBの姿をご紹介します。これも「法匠会報」の大切な役割です。めずらしい体験をした人、ご存知の方は連絡をお待ちしています。

初めてマック (Macintosh) をいじってからはや6年、我が家は無線ランを介してブロードバンド接続の3台のマックが活躍中。かみさんは毎日自分のホームページを更新 ([http://homepage.mac.com/i\\_tomoko/](http://homepage.mac.com/i_tomoko/))。私は仕事で一日中モニターの前。1Dの勉強を始めた息子だけが何故かマックとアナログの世界を行ったり来たりしている状態。

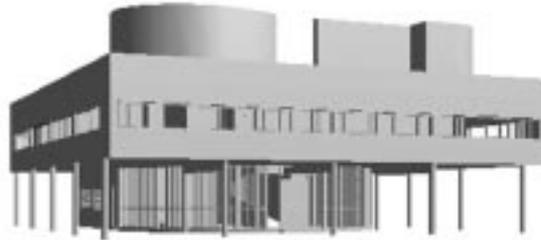
### 女子大で教えることに

そんな私が昨年一年間、女子大でCADを教えることになってしまった。授業環境は最速のマックと最新のアプリケーションで申し分なし。授業開始前に2人の学生を我が家で一日特訓した。その後2ヶ月間ネットを利用してサザエさんの家のデジタル化の講習をしながら、教え方のコツを掴む。平行して、数人の法政OBにもネット経由で同じサービスを提供したが、全員挫折。その後、助手をしてくれる人も初めての経験だったので、我が家で週に一度、半日特訓を1ヶ月間受けてもらった。

### いよいよスタート

授業には16人受講した。土曜の朝8時半からの授業にもかかわらず驚異的な出席率で、「住吉の長屋」「前川邸」「ファンスワース邸」「サヴォア邸」の2D、3D、ムービーを完成させた。こちらも、年の初めから、仕事の合間をぬって全ての課題を自分で描き始め、全て書き終えたのは

サヴォア邸



夏休み明け。「住吉の長屋」は打ち放しとサッシの収まり、「前川邸」は尺寸の枠周りディテールと実物のサーベイによる寸法確認、「ファンスワース邸」はインチ、フィートで表記されたデータの読みとり、「サヴォア邸」は大学の蔵書から正確な図面を取り込んで、トレースの技法でキャド化を実施。

初めのうちはこちらの作業をモニターで確認しながら、自分で作業を進める物まね状態でスタートしたが、梅雨明け頃から「さあやってみましょう」のかけ声で図面を見ながら自分で進めて、行き詰まるとアドバイスをする程度になり、10回目には『住宅設計in3D/CG』を書いた法政OBの川鍋明弘氏に「ムービー作成のこつ」の講義をお願いした。

### 住吉の長屋に授業時間の三分の一が

それでも「住吉の長屋」に全授業時間の1/3を使ってしまい、この先どうなることかと思ったが、ある段階を乗り越えるとはほとんど手を掛けなくても独力で作業が進められるようになってきて、数人のグループごとに遅れた学生の面倒を見る関係が自然発生。CADは全て原寸で描いていく作業なので、部材の構成と寸法、他

の材料との取り合いの関係を、理由を説明しながら解説するのはこちらにとっても、かなり勉強になった。建築独特の断面線、見え掛かりの線といった線の引き分けは2Dと3Dのデータに切り分けて表現しないとメリハリのある図面にならないが、このあたりの理解が出来ると出力した図面もプロっぽくなってくるので、学生も楽しそうになってくる。

### 尺寸、インチフィートに泣く

「前川邸」の尺寸の感覚と「ファンスワース邸」のインチフィートの感覚にはかなり泣かされたが、終わってみると何となくなじんでしまって、CADだからこそ出来る体験だったような気がした。

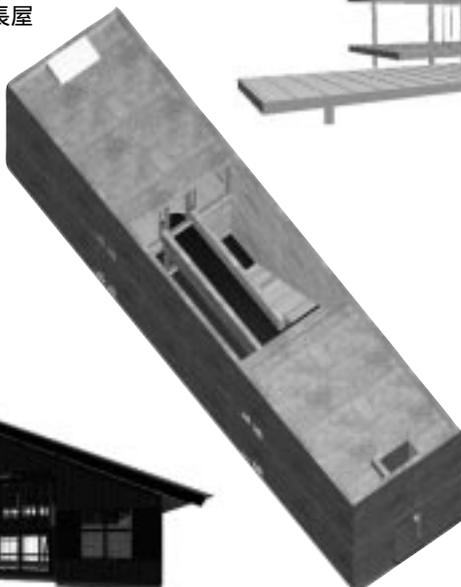
夏休み、冬休みはネットを利用して宿題に取り組んでもらった。毎朝数人から添付されてくるファイルをチェックして、アドバイスをする。同じ箇所でもつまづく人が多いので、こちらの作業は同報通信で処理出来たので、思っていたほど大変ではなかった。最近の英会話教室の様にネットを通じてCADを教えることは十分可能と確信。授業の始まりに毎回、技能試験の練習問題を実施したり、図形にレコードをリンクさせる方法や、自分のツールのカスタマイズといった、よりCADらしい機能を解説したが、これが自分でも初めてのことがほとんどで、かなり有意義だった。

### ついに7つのデジタル作品が完成

最後の課題はコルビュジェの住宅作品の中から自由に選んでもらったので、「サヴォア邸」以外に7つのデジタル作品が完成した。2次元の図面を3次元化すると図面の内容がすごく良く理解出来るようで、デジタル模型も縮尺に左右されない面白さで、中に入って空間体験が出来、実物を見る為の準備として非常に有効だと思っている。

嬉しいことに、受講者の半数がメーカーの実施する操作技能保持者認定試験に合格した。今後ネットを利用してのキャド講習や、自分でデジタル化した建物の実物を見に行く研修旅行ができればと思っています。

住吉の長屋



ファンスワース邸



前川邸



# 武者英二教授最終講義・実測図展 「設計と研究に専念したい」

1月12日小金井工学部講堂・  
工学部西館にて

建築学科の武者英二教授が65歳の定年を迎えられ、この3月で退任されました。それに伴う武者教授の最終講義が、去る1月12日に東小金井の法政大学工学部の講堂で行われました。学生と教職員そして学外からの来賓と卒業生の400名を超える出席者を前に、武者教授は、大学において学生とともに歩まれた30年間の道程を映像を折り込みながら講演され、終演に際してはこれからの日本の建築の行方について私見を語られました。

当日、工学部西館1階で「武者研究室実測図面展」も同時開催され、これまで武者研究室で出版や研究資料のために実測した文化財的建物や民家の手描き図が、リアルな原図というかたちで披露されました。

最終講義後、図面展と同じ会場で行われた歓送会では、研究フィールドである沖縄からこの日のために送り届けられた数種類の泡盛をはじめ、生協の協力により沖縄料理も登場し、特色ある和やかな会が催されました。

今回同時開催された「実測図面展」は、武者教授の最終講義の一環として企画されたものです。展示図面は、武者研究室で作成された数多くの実測図のうち「桂離宮」と「沖縄久米島」の2ヶ所から選ばれました。桂離宮の図面は、1983年に新建築社から刊行された「新建築臨時増刊桂離宮」「KATSURA」のために作成されたものです。沖縄久米島の民家の図面は、1981年から始まった沖縄調査の初期の実測記録です。この図面は『沖縄久米島の総合的研究』に掲載され、また、沖縄各地での研究報告の展示会にも展示されました。

82年大学院修了の浅川氏は当時の様子を次のように語っています。「桂離宮の図面は、武者先生と永瀬先生の指導のもとに大学院生が現地の実測を行い、その野帳と記録写真に基づいて学部ゼミ生が徹夜で約2ヶ月間作図を行いました。沖縄での実測調査は、南国の暑い日差しの下で昼間は黙々と実測を行い、夜は民宿で野帳から図面をおこすという毎日でした。大学に戻り、ゼミ室での徹夜の作図が何日も続きました。辛い作図作業時にも学生達は何か楽しみを見つけ、点景の中に自分のサインを巧みに書き入れていました。図面に携わった当時のゼミ生達は、今回十数年ぶりに展示された原図を見て、懐かしくそのサインを探していました。」

学生や学外出席者は展示された精細な手描きの原図に驚嘆の感、大のようでした。また、最近、この図面展に対する学



外からのよき反響もありました。このような図は保管されるのみでなく、今後も役立てられる機会があれば、当時のゼミ生達の苦労もより報われることでしょう。

武者教授は今後も沖縄文化の研究を続けられるとともに、二年間は非常勤とし

て大学院生を指導されますが、これからは建築家本来の建築設計と執筆活動に専念されたいとのこと。健康に充分配慮され、ますますのご活躍を期待します。  
(中屋伸重1973年卒)

## 佐々木宏先生記念講演会 ますます闘志を燃やして

2月23日市谷キャンパスにて

佐々木宏先生が本年3月をもって37年間勤められた非常勤講師の職を退職され、これを記念して、佐々木ゼミの卒業生が中心になって退任記念講演会が2月23日、法政大学市ヶ谷キャンパスで行われた。

当日は、学内外の研究者、OBが多数参加、「どうやって近代建築を学んできたか」のテーマのもと、貴重なお話を耳をそばだてました。先生の歯に衣着せぬ鋭い批判精神に会場は熱気につつまれた。

講演のあと、ボアソナード・タワーにおいてパーティが行われたが、講演会の熱気がパーティ会場にも持ち込まれ、さらに、盛り上がったのはいうまでもない。ゼミのOBだけではさばききれないほどの盛り上がるうちに、川口衛先生の「佐々木さんは専任の先生よりも熱心に学生の指導をされていた」というお言葉を始め、田辺員人・馬場璋造さんなど来賓の方々からの祝辞を受け、名残り惜しい一時をすごした。

当日は、記念品として900をこえる膨大な執筆目録をおさめた『佐々木宏書誌目録』と、パーティではさらに『20世紀建築のあるパトロン』の赤い小冊子が手渡された。

あらためて佐々木先生の「近代建築」へ問いかけた様々の視点が激しい奔流のように見えて来た。

卒業生にとっては「建築思潮」という他では耳にしない講義、そして今、日常の仕事に埋もれてしまい、すっかり忘れていた「近代建築」という言葉は、今も不思議な響きと力があり、その意味するところ、そして今の「現代建築とは」何であるかを考えなさいと執拗に語る、耳の痛くなる先生の言葉であった。



この日、先生は近代建築に対し、さらに持論を展開していきたいと強く宣言し、この講演はどうも一つのくぎりに過ぎなかったようである。

先生のますますの活躍を期待したい。



『佐々木宏書誌目録』が刊行された。佐々木先生の退職を記念して、ゼミOBが呼びかけ、先生の50年にわたる執筆の総目録がまとめられた。先生の近代建築に対する旺盛な研究・執筆活動が読み取れる。希望者は下記へ。

山崎勝哉(1966年卒)  
千葉県浦安市当代島1-5-4 エスポワール101  
047-351-8770

# 巨大病院の情報システム

カリスマ建築家を支える法政OBが語る

アシハラ太郎事務所 小林 仁 (1986年卒)



芦原太郎、堀池秀人、北山 恒の三氏が、蔵王連峰を背景にする高台に、白石市外二町組合の運営する地域中核病院をJVで設計。災害拠点病院とするため、免震構造を導入。スパン13.35mという大架構CFTと9箇所の耐力コアによる、1,2階吹き抜けの巨大なフレキシブル空間をつくり、その1階に、外来、中央診療部および厚生部、2階に事務・管理部および手術部を配置。3階は増改築用の床下配管スペースのある屋上庭園と一体になった気持ちの良い病棟になっている。

利用者にわかり易い平面構成をもつ病院とするために、入口から一目で、診察をうける診療科の受付や待合がわかるよう、外来部門・中央診療部門を2層吹き抜けの連続したピロティ空間にガラスで包み込むように配置している。また診察後の処置・検査もすべての検査受付を集約し、患者にわかり易く配置し、コンピュ

ーターによる案内システムや呼出表示システムを活用している。

3階の病棟は自然採光と自然換気が可能のように、すべての病室が屋上庭園に面している。ここでの自然換気もコンピュータによって自動的にコントロールされている。屋上庭園は又、病気の伝播を防ぐために病棟全体を6つのブロックに分けてもいる。疾患別、病状別の細かな分散収容に対応するため、搬送の動線と病棟の廊下を分離し、静かな病室づくりを図っている。

医療業務や管理業務以外の煩雑な日常業務も全てコンピューター化し、中材から最新の小型搬送機で医療品の供給やカルテの移送を行っている。このように患者の医療情報はもとより、全ての物品の移動と情報の伝達をコンピューター管理することで、癒しの環境と機能的な医療環境を実現している。

M

卒業生のホームページをご紹介します。ぜひアクセスしてみてください。

業務内容	目的・活動内容	所属団体
国土形成計画 資料1	国土形成計画	国土形成計画
国土形成計画 資料2	国土形成計画	国土形成計画
国土形成計画 資料3	国土形成計画	国土形成計画



山田清 (1974年卒)  
大学卒業以来様々なまちづくりに関わってきました。

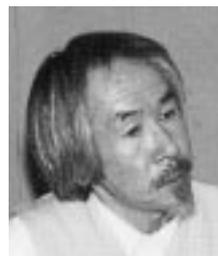
卒業制作で扱った東京日野市の多摩平団地立て替え

では、25年後に日野の市民グループとともに団地住民対象のワークショップ事務局として、現実の場面に参画する機会を得ました。

現在では「(有)人イエまちネットワーク」をつくり、地域ぐるみワーカーズコレクティブ的設計事務所を目指しています。

また「おぎくぼ塾」を開催し、まちづくりネットワークにも取り組んでいるところです。

<http://homepage1.nifty.com/himnet/>



横山正登 (1970年卒)  
移り変わる美しい四季をもつ日本の風土に対応し、自然の恵みを精一杯享受した、街並み・景観へのやさしい配慮を図った

住宅、そして必要最小限のバリアフリーを確保し、可能な限り、「自然との共生」を図った住宅でありたい、と考えます。

技術の発展、便利さの拡大等々に依って、逆に失われてゆく大切なものを今一度見つめ直し、素直に暮らせる住宅のあり方を求め続けていきたい、と願っている。「吾唯足知」そんな心情の中から、人生を見つめ、建築を捉え、住宅を造り(生み)出していきたい、と考えている次第です。

<http://www.mis.ne.jp/adpers>

**「私の逸品」「マイホームページ」**  
とっておきの愛用品の情報をお知らせ下さい。あなたのホームページもご紹介いたします。情報下記へお知らせ下さい。  
toy-ishiguro@col.hi-ho.ne.jp  
石黒豊明 (1972年卒)

## 秋沢健司さんのこと 「物言わぬ建築家」の死

趙 海光 (1972年卒・プラン21)

秋沢健司さんが亡くなりました。4月9日のことです。急性の癌で、発見からわずか3ヶ月の闘病生活でした。あまりにも早く、突然の死に愕然としています。

秋沢さんは72年卒、倉田ゼミの出身で、高山建築学校の主要なメンバーの一人でした。

倉田康男は「最もよく高山建築学校の精神を体現した学生」と、彼を評しています。たしかに秋沢さんのモノづくりの才能は異色でした。

秋沢さんの代表作は栃木県鹿沼市に建てられた自邸ですが、コンクリート製の花ブロックをセルフビルドで組み上げたこの自邸は世に衝撃を与えました。ブルータスやボックスが取材に押し掛け、石山修武も『現代の職人』で、「物言わぬ建築家」として秋沢さんの寡黙な仕事ぶりを讃えています。けれども、秋沢さんの建築が本当に理解され評価されるのはまだ先のことでしょう。なぜなら秋沢さん



秋沢健司君 (1973年卒) と工事中の自邸



のやったのは、産業化された時代になおクラフツマンシップは可能だろうかという根本的な問いかけで、それに対する答えはまだ見つかりそうにないからです。

# 法匠女性ネットワーク

## 第7回総会が開催されました

# 6年間の活動年表が完成

去る5月11日(土) 法政大学市谷校舎会議室において「法匠女性ネットワーク」第7回総会が開催されました。

02年度代表に石川弥栄子さん(63年卒)を選出し、01年度決算、02年度予算案が審議、承認されました。

「ネットワーク」では、発足以来、6年間の地道な活動記録を平成13年度の「建築学科新年会」に女性ネットワーク活動年表として発表しました。

そこで総会ではその活動年表を元に「現在までの活動を振り返り、今後を展望

する」をテーマに話しあい、活動内容をさらに充実させ、新たな一歩を踏み出しました。

現在、ITによる「会員相互間の情報交換と共有化」を目指してE-mailと電子掲示板の活用により、「ネットワーク」の活動報告、イベントの案内、運営委員会の議事録、情報交換が地方の会員に迅速に伝わるよう検討を始めました。

先生方をはじめ同窓会の皆様、今後ともよろしくお願いたします。

## 隅田川くんだり

「水辺より街を見る」

絶好な川下り陽気の4月20日(土)「女性ネットワーク」の5人が日の出棧橋より水上バスで浅草に向けて隅田川を出発

しました。左岸に築地市場が現れ、勝鬃橋を過ぎるとスーパー堤防の聖路加ガーデン、右岸には佃島の再開発、大川端リバーシティ21、左岸には日本IBM箱崎ビルの特ラス、水辺の特ラスには多くの人々が散策を楽しんでいました。駒形橋、吾妻橋をすぎ、いつの間にかテラスにはブルーのテントハウスが目立ち、人の姿は消え、水辺から街を見る旅も終わりに近づきました。浅草で新たに3人が加わり、おのぼりさんよろしく縁日のような夜の仲見世通りに踏み込みました。

ネットワークでは「東京の街」をテーマに活動を展開していく予定です。皆様のご参加をお待ちしています。



### 法匠女性ネットワーク 1996

- ◎ 発会式 1996/5/12 法政大学工学部建築科学生会
  - パネリスト: 建築の世界で私たちの役割(1)
  - パネラー: 橋本 高樹(79年卒)、中野 順子(85年卒)、船橋 由紀(89年卒)、池田 麻里(83年卒)
- ◎ 人シリーズ 1996/7/6 東京ワンダフルクラブ
  - テーマ: 「三人の仕事」(住宅計画、設計の現場で仕事をしています)
  - パネラー: 石川 弥栄子(80年卒)、船橋 由紀(89年卒)、船橋 佳子(79年卒)
- ◎ 法政大学工学部建築学科のループを織る 大田先生のことをもっと知りたい!
  - 第1回 国立地産校 1996/6/20 建築及び産を鑑賞する会 (大田先生の作品を鑑賞する)
  - 第2回 法政大学西ヶ谷校舎 1996/10/28 大田先生と先生の対人関係について語る会 (お話し: 中野 順子、船橋 佳子)
  - 第3回 大田先生宅八幡宮 1996/12/22 大田先生宅と書斎にふれる(1)
- ◎ 懇話会 法政大学建築科の発展に向けて 高齢者社会に向けて、ユニバーシティハウスの学習会 (1997/1/25)
- ◎ データベース 高橋行成・発行、アンケート調査 (1997/5/6)

### 法匠女性ネットワーク 2000

- ◎ 見学会 2000/5/3 『建築雑誌社社報』(2000年5月号) (2000年5月号) (2000年5月号)
- ◎ 第5回 絵会 2000/5/22 法政大学工学部建築科学生会
  - パネリスト: 建築の世界で私たちの役割(2)
  - パネラー: 石川 弥栄子(80年卒)、船橋 由紀(89年卒)、船橋 佳子(79年卒)
- ◎ 志賀高原・小在施の探 2000/6/17 一休
  - パネラー: 石川 弥栄子(80年卒)、船橋 由紀(89年卒)、船橋 佳子(79年卒)
- ◎ フィンランドの庭 2000/6/17 二休
  - パネラー: 石川 弥栄子(80年卒)、船橋 由紀(89年卒)、船橋 佳子(79年卒)
- ◎ 小金井祭参加 2000/11/18 法政大学工学部建築科学生会
  - パネラー: 船橋 佳子(79年卒)、船橋 由紀(89年卒)、船橋 佳子(79年卒)
- ◎ 新年会 法政大学西ヶ谷校舎 2001/1/24 法政大学西ヶ谷校舎 2001/1/24
- ◎ 見学会 武蔵野特別養護老人ホーム「霞の家」2001/3/24 設計・監理: 船橋 佳子
- ◎ お花見 法政大学西ヶ谷校舎 2001/4/7 法政大学西ヶ谷校舎 2001/4/7
- ◎ データベース 高橋行成・発行、アンケート調査

## 身近かな本棚

**リアリテ ル・コルピュジェ**  
 「建築の枠組」と「身体の枠組」  
 富永讓監修 / ギャラリー間 = 企画・編集  
 中村好文 / 鈴木了二 / 鈴木恂 / 八束はじめ / 伊東豊雄  
 B5変形版 302頁  
 TOTO出版  
 1905円 + 税  
 「住宅のル・コルピュジェ 全

プロジェクト模型と家具」と題して昨年4~5月にギャラリー間で展覧会と連続講演会が行なわれた。その全記録を纏めたもので新任の富永讓先生が監修、標記6人の建築家が「住宅」を起点として、それぞれの興味を発端にコルの合理的とはいえない側面まで光を当て、言及している。対談と多く挿入された写真で議論が見える。一読を。



## 「東京再生研究会」次回予告

7月23日(火)6時より、市ヶ谷キャンパスアソナードタワー26階、会議室Aにおいて「下町東京の再生」をテーマに第3回が開催される。1部「東京再生研究会学生ネットからの発表: 都立大・東大・日大」、2部 コーディネーター: 陣内秀信、パネラー: 出口清孝(法大教授)、大江勉(台東区役所)、荒川氏(アルテップ)他の予定。同窓生の皆さん是非御参加下さい。

## 卒業設計公開講評会2002

公開講評会は、2並びの2002年2月2日(土)1時より6時まで、小金井キャンパス西館のマルチメディアホールにおいて開催されました。

講評・審査には建築学科教員、そして特別審査員として現在活躍している建築家の内藤廣氏(東京大学教授・内藤廣建築設計事務所)、住宅設計などで知られている平倉直子氏(建築家)そして建築評論、建築史家であるとともに建築設計でも建築学会賞を始めとし数々の賞を得ている藤森照信氏(東京大学教授)を招いて行われました。講評の対象は、143人の卒業設計の中から厳選された11作品。

発表者は、段上に図面と模型を運びこみ、CGなどの視覚効果を添えて作品のアピールに懸命。中にはプレゼン効果に原寸大サインをバラまくもの、プロ用CGソフトを駆使してプロ顔負けの迫力ある映像を提示するなど、年々の特徴が表れています。それでも百戦錬磨の先生方の前にはタジタジ、講評を聞いた後輩達にはさまざまな意味で強い刺激になったようです。



## レセプション開催

上記講評会の後、学生ラウンジに場所を移し、先生方、同窓、他大学を含む学年をこえた学生達が集まりました。吉田主任教授の挨拶、服部建築同窓会会長による乾杯の音頭で和やかな懇談が始まり、会の途中で受賞作品が発表されました。授賞者は次のとおり。

卒業設計賞・平倉直子賞：**面田晋太郎**  
 卒業設計賞・内藤廣賞：**若松静香**  
 卒業設計賞・藤森照信賞：**山本友紀**  
 卒業設計賞：**平澤津有希子、鴻野 綾**

今回の講評会でも、昨年と同様に企画・運営に大学院生が積極的に参加、会が同窓会や協賛企業などによって支えられました。ポスターやプログラム制作、そして講評会、レセプションの司会、会場設営など全て大学院生が担当、院生パワーが発揮されています。

## 学外卒業設計展等法大代表決まる

卒業設計審査と卒業設計公開講評会を経て、次の学生が学外で行われる各種展覧会や出版物掲載の法政大学代表に決まりました。

日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」：**面田晋太郎** 近代建築社『卒業制作2002』：**平澤津有希子** JIA主催「東京都学生卒業設計コンクール2002」：**若松静香、岩本健治** レモン画翠展「第24回学生建築設計優秀作品展」：**鴻野 綾** レモン画翠「第五回学生CAD教育の現場展」：**福光 修**  
 HOSEI STUDIO WORKS 第2号2002

## 建築研究 発刊される

昨年度から2分冊として編集されることにな

った『建築研究2002(卒業論文)』、『HOSEI STUDIO WORKS 2002(卒業設計)』が3月24日学位記授与式の日に建築学科より発行された。論文梗概集はB5版98頁、卒業設計梗概集はA4版46頁で合格者全員が掲載されている。

## 卒業設計学外展有志六本木で

前年は、卒業設計学外展がJIAギャラリーで3月末～4月初に開催されたが、年度末ゆえ来展者が少なくせつかくの力作もあまり見ていただけなかった。よって昨年度のような展覧会は見あわせ、6大学(法政・横国大・理科大・日大・武蔵工大・神奈川)有志による展覧会が廃校となった六本木の小学校校舎で開催された。



## 建築学学位授与式晴れやかに そして熱き謝恩会は新宿で

2001年度建築学科卒業生は、学士142名、大学院工学研究科は修士44名(環境2,構造5,計画37)、博士1名、計187名が以上の学位を授与されました。卒業・修了おめでとう。既に入会している人も含めて建築学科同窓会へようこそ。卒業式は日本武道館、学位記交付は小金井キャンパスで行われました。学位記の交付は、建築学科主任の吉田長行教授、大学院は大学院主任の出口清孝教授から一人づつ手渡されました。工学部同窓会からは、成績優秀者として褒賞が次の2名に与えられ、服部建築同窓会長より手渡されました。

## 名城俊樹君(渡邊) 早坂有希子さん(武者) 謝恩会

3月24日6時より、卒業生主催(幹事:吉田ゼミ)により、新宿西口超高層ビルにおいて、お世話になった先生方・同窓会役員を招いて謝恩会が開催されました。先生方や同窓会会長からお祝いと激励の言葉、そして学生たちから先生評と大声援、胴上げまであり、熱い卒業謝恩の会となりました。

## 建築研究賞創設(卒業論文賞) あわせて卒業設計にもメダル授与



卒業設計にはすでに賞が出されているが、長年懸案であった卒業論文に対しても賞「建築研究賞」が2001年度より創設されました。これまで研究に関しては、研究室の継続研究やグループ研究をどう評価するのが難しいとされてきましたが、計画・構造・環境など分野別発表の後、選考された論文をさらに全体発表、専任教

員全員の評価をもってそれを可能としました。この発表は、講堂で学内公開とし後輩達に刺激と研究とは何かを伝えるものとなりました。

賞は賞状とともに記名入りのメダルが授与されました。第1回の受賞者は以下の通りです。

並進振子の超高層免震への適応に関する研究：**神谷育枝・中川勝也・中村貴洋・長坂広之**(川口・阿部) 「グスク」の復元に関する研究：**野田浩司・柳沢秀実**(武者) 「空き」利用の可能性：**平澤津有希子**(大江) 雨水循環型屋根散水による熱流入量低減に関する研究：**伊藤栄治・内田千津子・斎藤由佳・高梨勝弘・田口敦子**(出口) もんじゃ街から見た月島：**山本友紀**(陣内)

授与されたメダル製作はデザイン：永瀬克己、原型製作：吉江庄蔵の両先生によるものです。この小さな円形の中に「思考する女神と大地、水平線と建築原型、描くことと大工道具」が刻まれています。製作原資は建築学科創立50周年記念教育基金によるものです。

## 入選：SICF、毎日DAS賞

プロが多く応募するワコールアートセンター主催の標記展覧会に**松浦弘樹君**(院2-渡邊) **園田慎二君**(現・東京芸大院-渡邊卒)が入選。

毎日新聞主催・卒業設計対象のDAS賞に平澤津有希子さん(大江)が入選しました。

## 2002年度春

### 建築学科・大学院新入生入学

4月3日(水)日本武道館において2002年度の入学式が行われました。今年は桜の開花が殊の外早く、新緑に祝福されて建築学科147名、大学院修士35名、計182名の新入生が入学しました。入学おめでとう。学部新入生は教員・OBと共にウォークラリーで都心を歩きました。

### 新任教員紹介

【学部・大学院】**富永讓教授**(専任-第1頁参照)以下の各氏が新任非常勤講師として下記科目を担当します。

【学部】 図学B(1年)、建築図形処理演習1(2年)：**松本文夫氏**、建築構造力学1A・1B(1年)：**佐々木睦朗氏**、建築基礎演習B(1年)建築材料実験(3/4年)：**新藤 智氏**、建築設計製図3A(3/4年)：**西沢大良氏**

【大学院】 建築設計1：**曾我部昌史氏**、千葉学氏 建築設計2：**原 広司氏**

### 夏休みに学ぶ「建築実務実習」

#### 希望者多数 同窓生の協力を

大学は7月30日～9月15日まで夏季休業。休みも有意義にと「建築実務実習」を望む学生(3年生)が増え、今年度の登録者は70名近くになります。同窓生の協力なくして多くの学生の希望に応えることはできません。今年もご指導をお願い致します。担当：渡邊・古川・阿部・永瀬(Fax 042-387-6125宛)

### 建築設計製図学年毎の講評会

今年はファイナルレビューウィークを前期の終わり7月8日の週に設けてあり、各学年・大学院までの設計製図の講評がオープンになっています。7/9(火)3年、10(水)4年・院、11(木)2年、皆さんご参加下さい。

問合せ先：tel.042-387-6324 永瀬